

令和6年度 第2回 可美中学校運営協議会 会議録

- 1 開催日時 令和6年9月10日(火) 13時30分から15時40分まで
- 2 場 所 可美中学校 3F CSルーム
- 3 出席委員 小野田和弘 牧野源太郎 小野田康弘 岡本眞理 川原眞美
(敬称略) 見野大輔 中村淳子 中村精志 下田浩伸 山下美和
- 4 欠席委員 なし
- 5 学 校 小畑多佳子(校長) 池野弘昭(教頭) 谷野大樹(教務) 中川将大(CS主任)
杉本直樹(CS担当) 與五沢智宏(3年主任) 石黒竜市(家庭科)
後藤高美(CSディレクター)
- 6 教育委員会 清水 悠(教育総務課グループ長)
- 7 傍 聴 者 土屋明久(可美協働センター長)
- 8 会議録作成者 CSディレクター 後藤高美
- 9 授業参観 13時35分から13時50分まで
第1回運営協議会後のアンケートにて生徒の様子を知りたいとの要望で実施。

10 会長挨拶

小野田和弘会長 全委員揃っての会議が久しぶり、本日も本音トークでお願いします。

11 校長あいさつ

- ・台風の影響も受けず8月30日に始業式ができ、落ち着いたスタートができた。
- 2学期は行事が多い。学校生活の充実や、いじめへの対応を課題として取り組んでいく。
- ・生徒への1学期の振り返りアンケート実施、結果報告。

(1) 野外活動 (中川教諭)

5月28日から30日 三ヶ日青年の家にて 活動目標の紹介。生徒の満足感や達成感を感じた。教員の日々の打合せや準備への意識向上につながった。

(2) 修学旅行・修学旅行探究テーマ報告 (與五沢教諭)

5月21日から23日 奈良・京都へ 実行委員11名が中心となり、2年生の10月から行程やルールなど様々な面で主体的に考え、生徒が作った修学旅行だった。探究テーマ発表は7名が全校発表。

(3) シツクリプロジェクト「エンジン」 (中川教諭)

2年生は7月から5か月間合計25時間から30時間を使用し、須山建設・浜松いわた信用金庫・中部電力パワーグリッドの3社と学習を進めていく。生徒は楽しく取り組んでいる。

12 議長の選出

第1回運営協議会にて協議済。議長を会長に務めていただくことについて、全員異議なく承認した。

13 1学期の活動報告

(1) 前回議事録の確認 (池野教頭)

(2) 職場体験について (杉本教諭)

岡本委員 ひまわり学級の先生から別で職場体験先を探して欲しいと依頼を受けた。一本化できないか。

(3) 家庭科学習支援の詳細について（石黒教諭）

石黒教諭 岡本委員・中村淳子委員の協力で人数の確保できた。支援者が9月24日
来校予定。生徒の様子を見学する。

小野田会長 昨年の要望が実現する、今後他の教科支援も増やしていけるように、協力を
をお願いする。

(4) 受験前面接指導について（池野教頭）

小野田会長 女性の面接官が少ない、増やしていきたいので候補者を紹介してほしい。

14 熟議

①今後の部活動の地域移行について 【全体】（小畑校長）

小畑校長 7月に浜松教育委員会が資料を保護者へ配布。令和8年9月から休日は「地
域クラブ活動」へ移行。平日と休日の指導者・指導内容や怪我の対応、教
員の異動先にも関わる、十分な協議していく必要がある。意見をもらえたら
教えてほしい。

小野田委員 どう母体を作るかが大切になる。周辺地域とも話し合い、方向性を決めな
いといけないと思う。指導の一貫性をもった方がよいのではないかな。

牧野委員 学校としてどこに目的をもつのか。学校の部活動の概念がみえない。生徒
の意識改革も必要。怪我や体罰など相談場所はどうか。

杉本教諭 子供たちのモチベーションを上げるために、勝つ意識も必要。学校と地域
クラブのどちらの名前で大会へ出るか選択しないとイケない。全部活動の
競技が地域クラブチームにない。教員も部活を指導したい方もいる、教員
のなりてが減るのではないかな。

谷野教諭 サッカーは令和2年から地域クラブの形はあった。本格的に動いたのは今
年度から。日曜日は地域クラブとして活動している。地域クラブの大会も
ある。部活とクラブの両方を選択している子供やどちらか選択をしている
子供がいる。

中川教諭 野球は硬式のリトルリーグと軟式の部活を選択。部活動のよいところは、
中学から野球を始める子供も差を感じずに始められるところ。

小野田会長 子供たちはどう思っているのか。教員の兼業は出来るのか。市、中体連、
自治会の意見を確認していかないといけないと思う。

②今後の支援活動について 【グループ→全体】（中川教諭）

15時20分から15時30分までABCの3グループに分かれ意見交換。

A グループ 協働センターへ学習支援活動の参加募集の掲示や意見箱をおくなど協力を
をお願いしてはどうか。

B グループ 各教科の教員から支援の具体的な内容を示していかないといけない。実
施する家庭科の様子を広げていくのはどうか。

C グループ 支援者の関わり方、基準的なものを知りたい。求める人材の基準を具体
的にしてもらえると斡旋しやすい。

15 報告

・学校支援コーディネーターから（岡本委員・川原委員）

岡本委員 初の学習支援が実施できる、どんな効果があるか期待している。

川原委員 昨年職場体験を行った事業所から好評を頂いて、連絡が取りやすかった。

・第3回学校運営協議会について（中川教諭）

令和7年度 やらまいか講演会

いじめ対策について

16 オブザーバーから

土屋センター長 熟議の内容を可美地区全体で協議していく必要性を感じました。今後も学習支援の協力をしていく。

教育総務課グループ長 清水 悠さん

可美は制度が定着していると感じられた。マネジメントもよい、目標を共有して行ってほしい。

17 アンケート記入